

■デキサメタゾン誘発性筋萎縮モデル試験：方法

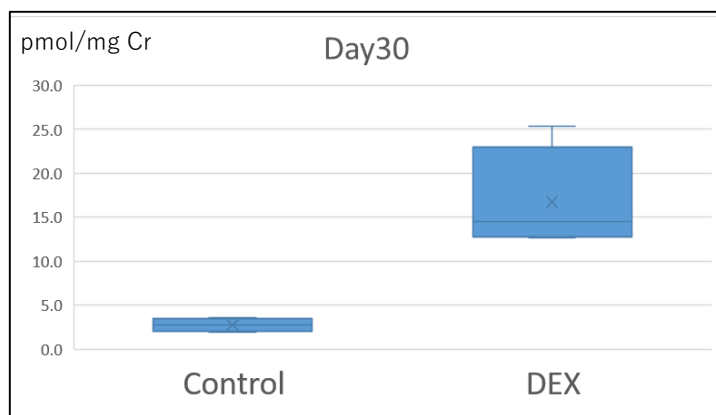
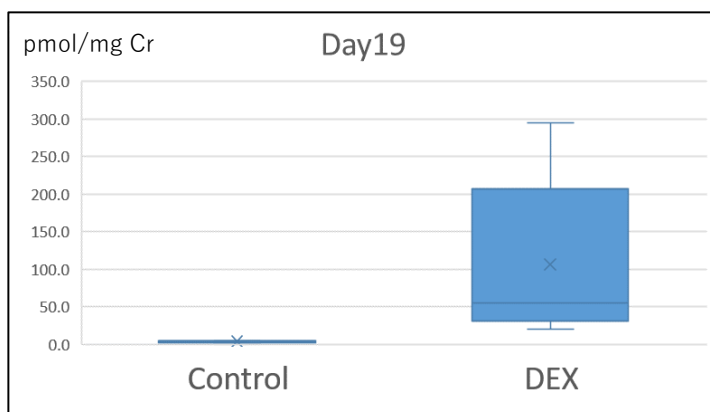
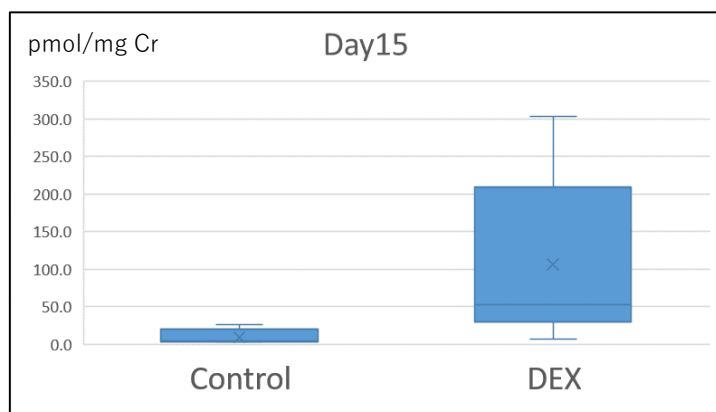
BALB/C 雄性7週齢（日本 SLC）を2群（各群5匹）に分け、以下内容の給水、通常食で飼育した。

1. コントロール（DMSO水：溶媒）
2. デキサメタゾン（10mg/L）融解水 Dexamethasone : 047-18863 富士フィルム和光純薬

■デキサメタゾン誘発性筋萎縮モデル バイオマーカー測定結果

Day15、Day 19、Day 30に採取した尿検体中のTitin N-Fragment（希釈倍率10倍）を測定、同時に尿クレアチンを測定した。

デキサメタゾン給水群では尿中のTitin N-Fragment（クレアチン補正）が上昇していた。



DEX : Dexamethasone

データ提供：東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科
教授 食品安全評価学研究室 美谷島 克宏 先生

（考察）

デキサメタゾン処理は培養筋管細胞を用いる系でIn vitroの筋萎縮モデルとして汎用されている。

下記参考文献では筋萎縮を抑制する食品成分を評価する試験系として、マウスにデキサメタゾンを飲水投与を行って筋萎縮が誘導されている。

筋分解を尿中で反映するTitin N-Fragmentはデキサメタゾン誘発性筋萎縮モデルにおいて有用な指標となる可能性がある。

■ 使用試薬 [Code # 27602 Mouse Titin N-Fragment Assay Kit](#) - IBL (株)免疫生物研究所

【参考文献】 WO/2015/166887 ケルセチン配糖体を含む筋萎縮抑制剤